

2017年度 建国小学校 学校評価

1. めざす学校像

私立学校の自主性と民族学校としての特殊性を十分に生かし、知・徳・体の円満な発達を期する民族の矜持と国際社会に適応できる豊かな能力を持ち、将来、民族社会に貢献できる有能な人材を育成する。

2. 中期的目標

1. 在日韓国人としての自覚と矜持を涵養する。
2. 国際社会に主体的に適応できる能力を育てる。
3. 自主的な生活実践を通して社会に奉仕する人間を育成する。
4. 個性を伸ばし、創造性を育てる。

3. 本年度重点目標及び自己評価

中間的 目標	本年度重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
1. 在日韓国人としての自覚と矜持を涵養する	自分の民族に誇りを持つて心育てる。	3、1 節や光復節などの民族的な記念日の講話	低学年では 9 割近い児童が韓国語を勉強することが楽しいと感じているが、高学年では約 4 割の児童が韓国語の学習を楽しいと感じていないという結果となった。保護者からは 95% 以上の満足度を得られた。	年 5 回の記念講話が、在日韓国人の歴史を知るきっかけとなっている。
	韓国語の効果的な指導方法を研究する。	韓国語単語試験に向けた効果的な学習方法 韓国で開発使用されている教材の活用		韓国語単語試験や能力試験の結果から見ると、一定の実力はついているものの児童は学習に負担を感じている。次年度に向け更なる授業研究を進める。

2. 国際社会に主体的に適應できる能力を育てる	子どもたちの学力、語学力の向上をめざす。	学習支援ボランティアの授業への入り込みや個別指導の実施 英語や韓国の授業におけるネイティブの教員による指導	80%以上の保護者から学力・語学力の向上について高評価(A、B)を得られた。	児童の基礎学力定着のため、様々な形での学習支援を充実させていく。
	学級全体の前やグループ内で発表・発信する力を育てる。	iPadやICT機器などを効果的に使用し、アクティブ・ラーニングに重点を置いた授業の実施	特に高学年に自分の得た知識を発表することを苦手だと感じている児童が多いことが読み取れる。次年度以降の課題として取り組む。	意見の表明は全体の場だけではなく、ペアやグループ内で行うことでもあることを児童に認識させ、発表に対する苦手意識が払しょくできるように指導していく。
	家庭と協力し家庭学習(宿題)を定着させ、基礎学力の向上を目指す。	担任による計画的な家庭学習課題の提示と家庭との連携	80%以上の児童がきちんと家庭学習をする習慣がついている。	授業で知識を身に付け、保護者の協力のもと、家庭学習においてそれらを定着させていくといったサイクルができています。
	指導要領の改訂に沿って、学習内容を再研究し、指導計画を作成する。	国語科の指導力向上のための授業研究	全体的な授業の進め方については保護者から高評価を得ている。	教員の資質向上のため、若年教員を中心とした国語科の研究授業を継続していく。
	3. 自主的な生活実践を通して社会に奉仕する人間を育成する	子どもたちの成長と社会状況にそって、カリキュラムを作成し、体験学習を行う。	社会見学、スキーや田植え、稲刈り、湖上活動、広島への平和学習など	児童全学年を通じて高評価を得ている。
他人の痛みが分かる心を育てる。		年間を通じ学年の成長に沿った課題をたて、障がい理解教育を実施	児童、保護者ともに80%から90%以上の高評価を得ている。	年間を通じて行うことにより、障がい理解教育をより汎化することができた。

4. 個性を伸長し、創造性を育てる	進んで努力する子、はきはき元気な子、互いに助け励まし合う子どもを育てる。	児童会活動、縦割り活動、4, 5月期6年生の『1年生世話係り』など	80%以上の児童が友だちと協力し、自分の役割を果たしていると評価している。	縦割り活動を通じ、互いに励まし助け合う気持ちを育むことができた。
	教員一人ひとりが子ども達の声に耳を傾ける。	担任だけでなく、副担任や教員全体が積極的に児童の活動にかかわり、声をひろっていく。	高学年での評価が低いことから次年度、改善に向けた検討が必要である。	担任、副担任だけでなく全ての教員が児童と関わり、気軽に話しかけられるオープンな雰囲気を築いていきたい。
	皆が共に、楽しい学校生活を送れるようマナー向上をはかる。	年2回以上の下校指導を実施	児童・保護者ともに90%程度の高評価を得ている。	特に教員の目が行き届かない下校時のマナーを中心に指導する。また災害時に役立つよう集団下校を実施する。

<2017年度 小学校の重点目標>

1) (民族的なもの)

- 自分の民族に誇りを持てる心を育てる。
- 韓国語の効果的な指導方法を研究する。

2) (学習面)

- 子どもたちの学力、語学力の向上をめざす。
- 学級全体の前やグループ内で発表・発信する力を育てる。
- 家庭と協力し家庭学習(宿題)を定着させ、基礎学力の向上をめざす。
- 指導要領の改訂にそって、教科内容を再研究し、指導計画を作成する。

3) (人権的なもの)

- 子どもたちの成長と社会状況にそって、カリキュラムを作成し、体験学習を行う。
- 他人の痛みが分かる心を育てる。

4) (学校生活)

- 進んで努力する子、はきはき元気な子、互いに助け励まし合う子どもを育てる。
- 教員一人ひとりが子ども達の声に耳を傾ける。
- 皆が共に、楽しい学校生活を送れるようマナー向上をはかる。

2017年度 建国小学校 学校評価アンケート(低学年 1-3 학년) 結果

Aーよくあてはまる Bーややあてはまる Cーあまりあてはまらない Dーまったくあてはまらない				
	A	B	C	D
(1)学校はたのしい。	66%	22%	7%	5%
(2)えんそく、うんどうかいやたてわりかつどうはみんなできょうりよくしている。	57%	31%	10%	2%
(3)じゆぎょう中に、すすんではっぴょうしている。	40%	39%	16%	5%
(4)しゅくだいをわすれずにしている。	41%	47%	10%	2%
(5)じゆぎょうの中で、じっけん・かんさつなどをしてわかったことがおおい。	63%	25%	7%	5%
(6)えいごを、すすんで楽しくべんきょうしている。	59%	24%	11%	6%
(7)こまったことは、先生にそうだんしている。	34%	42%	18%	6%
(8)しょうがいのある人や、こまっている人たちのことをすることができる。	57%	22%	10%	11%
(9)がっこうのルールをきちんとまもっている。	40%	48%	10%	2%
(10)かん国ごを、すすんで楽しくべんきょうしている。	58%	29%	6%	7%

2017年度 建国小学校 学校評価アンケート(高学年 4-6 학년) 結果

Aーよくあてはまる Bーややあてはまる Cーあまりあてはまらない Dーまったくあてはまらない				
	A	B	C	D
(1)学校は楽しい。	41%	40%	14%	5%
(2)学芸会、運動会、たてわり活動や宿泊学習で友だちと助け合って自分の役割を果たしている。	38%	47%	15%	0%
(3)授業の話し合いの場では、自分の意見を発表したり発言したりしている。	17%	32%	46%	5%
(4)宿題を毎日わすれずにしている。	37%	49%	8%	6%
(5)授業で、実験・観察・体験学習を通じて学んだことが身についている。	42%	44%	12%	2%
(6)英語の授業を通じて、外国の言葉と文化を学べる。	32%	40%	18%	9%
(7)学校で困ったことがあれば、先生に話すことができる。	22%	30%	23%	25%
(8)福祉の授業を通じて障がいのある人たち、困っている人たちにどう接したらよいのかを学んだ。	64%	28%	8%	0%
(9)学校生活のルールを守って過ごしている。	43%	48%	6%	3%
(10)韓国の言葉や文化などの学習は楽しい。	26%	35%	25%	14%

2017年度 建国小学校 学校評価アンケート（保護者）結果

保護者アンケート回収率 79 %

Aーよくあてはまる Bーややあてはまる Cーあまりあてはまらない Dーまったくあてはまらない

	保 護 者			
	A	B	C	D
全般				
1 教育方針や行事、健康指導などの情報を的確に伝えている。	48%	43%	8%	1%
2 子どもの成長に合わせた学習、行事などを計画的におこなっている。	45%	49%	6%	0%
学習				
3 ICTを活用するなどし、楽しくわかりやすい授業を行っている。	33%	54%	13%	0%
4 子どもの学力および語学力の向上に力を入れている。	43%	40%	14%	3%
環境 安全				
5 子どもの安全管理・安全指導に力を入れている。	41%	53%	6%	0%
学校 生活				
6 きまりやマナーなど、適切な指導をしている。	43%	50%	6%	1%
人権				
7 子どもの人権を尊重し、いじめなどの人権侵害を許さない姿勢で指導に当たっている。	43%	48%	7%	2%
8 支援を必要とする人たちの立場を学び考える授業を実践している。	48%	45%	7%	0%
民族				
9 民族的な学習や行事を通して、民族教育の充実に力を入れている。	68%	29%	3%	0%
保護者 との 連携				
10 保護者の相談に適切に応じてくれる。	54%	41%	4%	1%

2017年度 学校評価アンケートのご協力ありがとうございました。アンケートの評価結果をもとに、年度当初にお知らせしました重点目標と照らし、教員の自己評価を行いました。以下の点を教員の共通認識とし、今後改善に努力していきたいと考えます。

●民族的なもの（項目 児童10／保護者9）、英語（項目 児童6）

低学年では9割近い児童が韓国語を勉強することを楽しいと感じている。一方、高学年では、韓国語単語試験や能力試験の結果から、一定の韓国語の能力は身につけていると判断できるものの、約4割の児童が韓国語の学習を楽しいと感じていないという結果になった。高学年になり教科学習が増え、また韓国語の内容が難しくなる中で、子どもたちが韓国語の学習に負担感を感じていると考えられる。民族教科ではないが、英語についても同様のことがいえると考えられる。両教科とも授業教授の仕方を工夫するなどし、子どもたちが意欲を持って授業に参加できるようにしていきたい。

●学習面（項目 児童3・4・5・6／保護者3・4）

授業の中で知識を身につけ、家庭学習においてそれらのことを定着させていくことはできている。一方で自分の得た知識を発表することを苦手だと感じている児童が多い。意見の表明はクラス全体の場合だけでなく、ペアで話し合うことや、グループで討論することも意見の表明であることを子どもたちに認識させ、発表に対する児童の苦手意識が払拭できるように、指導していきたい。

●人権的なもの（項目 児童8 保7,8）

昨年まで9月に集中して学習していた福祉教育を、今年度からは年間を通じたカリキュラムを立て、取り組んでいる。障害のある人や高齢者とのかかわりはもちろん、自分の身の周りにはいる困っているクラスの友だち等にも適切な声かけができるよう、今後より一層、内容の充実を図っていきたい。

●学校生活（項目 児童1,2,7,9 保6）

高学年児童の7番「学校で困ったことがあれば先生に話すことができる」の項目のC/Dの割合が高いのが気になる場所である。低学年から高学年になるにつれ、大人に話しにくいというのは発達段階からすると、自然なことともいえるが、学校としてはよりいっそうオープンな雰囲気を作り、保護者とも連携しながら児童の悩みを聞き取り、安心して学校生活を送れるようにしていきたい。

今後、保護者のみなさまのますますのご理解・ご協力よろしく申し上げます。

2017年度 建国小学校 学校関係者評価

建国小学校 学校関係者評価委員会

委員長 盧永全

日時 2018年3月3日(土) 17時半～19時半 @会議室

参加者7名 教頭 黄裕錫先生 教務主任 梁真規先生

PTA 会長 盧永全(小1,5) 副会長 西川隆恵(小4) 保護者 金亨京(小4)

副会長 金昭貞(小3) 副会長 李奈奈(小2)

「学校自己評価」を項目ごとに、教務主任の梁真規先生に説明していただき、アンケート結果と照らし合わせながら「学校関係者評価」を行いました。

1. 民族的なもの

クゴ教育に関しての自己評価はほぼ適切であり、特に低学年では「9割に近い児童が韓国語を勉強することが楽しいと感じている」など、今後とも充実した授業を期待したい。

一方高学年の「約4割の児童が楽しいと感じていない」という結果に対して、学期ごとに行われる単語試験での取り組みのしんどさ(受かるまで試験を繰り返すなど)を感じているのではないかと、との説明がありました。

保護者からは言葉や文化をより身近に感じられるよう、韓国の同世代の子どもたちと交流する機会を設けてはとの意見が出されました。

韓国語の能力向上を図りつつ、子どもたち自身がその成果を実感し自信を深めるような取り組み、実践をお願いします。

※英語に関する評価は学習面で行うべきと指摘しました。

2. 学習面

「宿題を忘れずにしている」で8割以上の児童が肯定的な回答をしており、「授業で得た知識を家庭学習で定着させていくことができた」との自己評価は適切であり、家庭での勉強の習慣化を期待したい。

一方、児童アンケートの「自分の意見を発表したり発言したりする」ことに、高学年では約半数で否定的な回答になっている。このことに対し学校からは、実際にはグループ活動での「意見の表明」はできているとの説明がありました。自己評価にあるように「ペアで話し合うことや、グループで討論することも意見の表明」であり「発表の一形態」なんだと子どもたちに認識させ、授業形態の研究・改善を通じて、発表に対する苦手意識を払拭していただきたい。

また現在担任が気づかないところを補完する目的で学習補助のボランティアがあるとの説明がありましたが、週1回ではとても少ないように感じます。特に高学年になると授業内容に対する理解度に差が生じやすいので、学習補助の回数や人員を増やすなど、授業中に子どもたちをフォローできるような体制の充実をお願いします。

3. 人権的なもの

学ぶ機会を増やす目的で、「昨年まで9月に集中して学習していた福祉教育を、今年度から年間を通じたカリキュラムをたて、取り組んでいる」との説明があり、児童・保護者とも肯定的な回答になっています。

自己評価にあるように「自分の身の周りの困っているクラスの友だち達にも適切な声かけができるよう」、学んだことを学校生活で実践し、人に対して思いやりを持って接する、優しい気持ちを育ててほしいと思います。

4. 学校生活

児童・保護者とも比較的肯定的な回答になっており、児童は学校では楽しく過ごしていることがわかる。

しかし自己評価にもあるように、高学年でのアンケート「学校で困ったことがあれば先生に話すことができる」においては、約半数もの児童が否定的な回答(C:23%、D:25%)をしており、「D」が多いことも気になります。

これに対し委員会では設問の仕方に意見(「困ったことがあれば」より、「悩みを聞いてくれる」「先生は話しやすい」「話したいときに聞いてくれた」など)が相次いだ。低学年でも24%が否定的な回答していることから、子どもたちが先生との「距離」を感じているのではないかと思われる。また多忙ゆえ先生の「ゆとり」を感じられず、子どもたちから話しにくいのではないかと指摘しました。

子どもたちが先生と話したいと思わなければ決して改善しない項目であり、これまで以上に先生から子どもたちに声かけを積極的に行い、子どもたちと話す機会を先生自ら作っていただきたい。そして、自己評価にあるように「保護者とも連携しながら児童の悩みを聞き取り、安心して学校生活を送れるよう」、小学校全体の問題として取り組む必要があると考えます。よろしくをお願いします。

5. 総括

以上のように、「学校自己評価」については概ね適切であると評価します。

児童アンケートの設問に関して、本委員会でいくつか議論がありました。児童にとってわかりやすく、無理なく答えることができる内容を検討していただきたい。また具体的な対策を検討するうえでも、アンケートの設問数が少ないように感じます。より詳しい意見や評価を得られるよう、今後のアンケートの充実を期待します。

昨年の委員会からも指摘があるように、現在、教員の人的余力がないように思われます。これら先生の余裕のなさは「学校生活」で指摘した要因の一つでもあります。先生方が授業に支障をきたすことなく様々な教員研修へ参加でき、授業の質的向上を図れるよう、教員の積極的な採用を強く希望します。